安定的な収穫、産地の飛躍を目指す

『白神ねぎ』園芸メガ団地が完成

▲完成した『白神ねぎ』のメガ団地

能代市轟地区で整備が進められていた『白神ねぎ』の大規模栽培地「園芸メガ団地」が完成し、11月27日に佐藤組合長をはじめ県職員や農家など約20名の参加のもと、引き渡し式が行われました。

園芸メガ団地化は米依存体質から脱却し、園芸品目の生産振興を図ることを目的としています。今回の完成により産出額1億円を上乗せし、目標に掲げる販売額10億円突破を目指しています。

引き渡し書を受け取った佐藤組合長は「産地の飛躍を図るためには園芸主体の大規模経営体を育成する必要がある。メガ団地の完成によって『白神ねぎ』の生産・情報発信の中核となりたい」と話しました。

▶引き渡し書を受け取る佐藤組合長

『白神りんどう』の産地拡大に向け検討会を開催

平成26年度りんどう実績検討会

▲今年度の情勢について話す菊地組合長

藤里町が特産品化を進めている『白神りんどう』の実績検討会が、11月21日に開催され、平成26年度の実績や次年度への計画を協議しました。

白神りんどうは現在6農家が2.5haを栽培し、今年で6年目を迎えます。平成26年度は雪解けが早かったことが影響し1年を通して出荷が早い傾向でしたが、販売額は約2、300万円と、目標には届かなかったものの前年を上回る結果となりました。市場関係者は「白神りんどうの品質は、県内でもトップクラス。今後は貪欲な気持ちをもって栽培に励み、さらなる成長のために、市場のニーズに応じた出荷をお願いしたい。」と期待を込めて話しました。

様々なイベントで来店者をもてなす

みょうが館で秋の収穫感謝祭を実施

▲地場産食材たっぷりのだまこ鍋を試食

JA農産物直売所みょうが館で11月22日、『秋の収穫感謝祭』が開催され、実りの秋を堪能しようと大勢の来店者で賑わいました。

このイベントは、みょうが館を利用して頂いているお客様に感謝し、毎年この時期に行われています。今年も来店者に対して、新鮮な直売品をふんだんに使用しただまこ鍋が無料提供されたほか、会員自慢の漬物も振舞われました。また購入者先着200名には「富くじ」が行われ、ねぎやホウレンソウなど地場産野菜がプレゼントされました。このイベントを知らずに訪れた来店者は、「だまこ鍋」の無料提供に喜んでいました。

牡牛座（4・20～5・20） 保留になっていたことが動き始めるなど、うれしい変化あり。意欲的に動いて。メール交換も良い刺激に